

カラマツ人工林でより太い木をつくるための 間伐方法について

問 13年生のカラマツ林をもっています。樹冠がこみあってきたので間伐をしたいと思っています。伐期は35年位を想定しています。より太い木をより多く生産するためにはどのような間伐を行ったらよいでしょうか。なお、4年前に1度除伐を行っています。

(平取町 G.Y. 生)

答 太い木をつくるための第1条件は、まず、“間伐をする”ということです。それも、適正な時期にすることが重要です。地位の良い林分ほど樹高生長も早く、それに従って、樹冠の閉鎖も早いので、放っておくと枝がずっと上の方まで枯れ上がってしまいます。このような状態になってから間伐しても単木の樹冠の回復、すなわち、単木の葉量の回復がすぐには望めず、単木の直径生長の遅れをきたしてしまいます。あなたの山も今、丁度、間伐適期にあると思われますので時期を逃さず間伐した方がよいでしょう。もし、このまま間伐せずに放置したとしても、林分全体の材積(生長量)には大きな違いはありません。しかし、適正な時期に間伐をすることによって、より太い木をより多く作ることができます。それは、直径階ごとの単木あたりの生長量を無間伐の場合と間伐した場合で比べてみると、間伐した方がはるかに大きいということによります。また、間伐しないでおけば枯死してしまう木も間伐をすれば収穫することができます。これらが量的な面からみた間伐の大きな効果といえます。

間伐の効果を上げるにはかなり強度な間伐が必要です。弱度の間伐では、放っておけば枯死する木だけを伐ることになりがちで、太い木をつくるという効果は期待できません。しかし、あまり強度に間伐すると林冠が疎開しすぎて太陽光線を有効に利用できなくなり、林分の生長量は低下してしまいます。そこで、個々の木を太らし、かつ林分の生長量を低下させない様に間伐をしなくてはなりません。この条件を満たす間伐率は経験的には30～40%の材積間伐率だといわれています。では、この場合どのような選木をしたらよいでしょうか。

太い木をつくるには、まず上層林冠での競争を緩和する必要があります。そこで上層木でも幹枝の発達不良、病害、虫害木、二又、奇形、曲り、ねじれなどの形質の悪いものは伐るようにならなければなりません。そして、間伐後の立木の配置がなるべく等間隔となり、それぞれの立木が空間を十分に利用できるような状態におくということが大事です。しかし、列状間伐の場合では、上層の木も伐るということにより下層間伐に比べ大きな木は多くできますが、形質の悪い木も含まれているので次の間伐の時には形質の悪い木をとり除く必要があります。

すなわち、間伐の目的を太い木を作るとのことだけにとどめずになおかつ、通直な良い木をつくらうとするならば、「個々の木にあたって選木し、形質の悪い木は上層木でも伐る」という間伐方法が良いと考えられます。

(経営科 沼和研二)